

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなり、さらに108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

その後、堅調な経済指標を受けて米国の6月利上げ期待が高まってきたことなどがドルを下支え

ドル/円相場のトレード戦略

してきましたが、トランプ大統領の情報漏えい疑惑や、更迭したコニーFBI長官に対し、今年の2月にフリン前大統領補佐官に対する捜査を中止するよう要請していたとの疑惑が浮上しドルの上値も重い状況となっています。

トランプ政権の政策遂行力への不信感が高まったことで、米景気への悪影響が警戒され、今後は政治リスクをにらみながら米国経済実体の動向が焦点となる相場が予想されます。

■ 短期展望

先週は、前週の米雇用統計への失望からドル売りが強まった流れを引き継ぎ、ドルは軟調な動きで始まり、一時109円11銭の安値をつけました。

しかし、その後はコニー前FBI長官による米上院情報特別委員会での証言が無難に通過したとの見方で過度のリスク回避姿勢が後退し、110円台を回復する動きとなりました。

今週も、先週同様110円台前半を中心とした相場が続きそうです。

今週は、日米の金融政策の決定があり、その後の総裁発言が大きな注目となっていることから、内容を見極めるまでは大きくは動きにくい相場となるでしょう。

108円半ばから111円半ばのレンジ内で、方向感のない動きが続くことを予想します。